

英米文化学会第12回大会のお知らせ (既報)

標記の大会を下記要領にて開催します。

◆開催年月日：平成6年8月25日(木)・26日(金)

◆場 所：函 館 大 学 (〒042 函館市高丘町142 電話 0138-57-1181)

◆講 演 者： 英米文化学会会長 名和雄次郎先生

◆宿 泊 先：ホテル第2オーシャン (函館駅前)

第1日 8月25日

受付開始 16:00

換 拶 16:30~16:45 函館大学学長 河村 博旨

講 演 16:45~18:15 拓殖大学教授 名和 雄次郎

演題：認知心理学の知見を生かした英語指導法

第2日 8月26日

研究発表 9:40~15:50

- | | |
|--|---|
| 1. ミルトンの『教育論』に見られる紳士教育
—その現代的意義— | 大西 章夫 (中央大学大学院)
司会 曾村 充利 (法政大学) |
| 2. 『マクベス』の魔女に込められた政治的メッセージ | 越智 敏之 (工学院大学)
司会 門野 泉 (清泉女子大学) |
| 3. <Have+Object+Present Participle>型の授業での一つの取り扱い方 | 斎藤 博 (拓殖大学)
司会 伊澤 章 (拓殖大学) |
| 4. 開花に向かうサンフランシスコ文化
—1880年代から1906年の大地震まで— | 有馬 健一 (国学院大学)
司会 古澤 寛行 (昭和女子大学) |
| 5. Henry James: <i>The Bench of Desolation</i> のテーマと「視点」の手法をめぐって | 大東 俊一 (法政大学)
司会 大島 良行 (専修大学) |
| 6. ビデオ字幕の教育的利用法とその効果 | 第四分科会 (英語教育部会)
発表者 藤田 牧子 (神奈川県立衛生短期大学付属二俣川高等学校)
平川 敦子 (立正大学)
中野 陽子 (星美短期大学)
司会 石田 雅近 (清泉女子大学) |

大会事務局：佐藤英語研究室 〒101 東京都千代田区神田駿河台1-8-13 日本大学歯学部
電話 03-3219-8160 (直通)

分科会活動状況報告

1. 第1分科会

『たたかう性—英米文学作品におけるヒロインたち』（仮題）について、原稿を秋までにまとめて本の形にすることになりました。原稿ができたい会合を開き、発表・質疑応答を計画しています。

2. 第2分科会

4月30日（土）に会合を開き、宍戸氏から、Perri Klass, “Dedication” (Prize Stories 1992 The O. Henry Awards) についての発表がありました。現代アメリカの複雑に込み入った家族事情を背景に、小説家と彼の妻の連れ子との心の交流を中心に活発な質疑応答が行なわれました。また、当分科会に依頼のあった雑誌『Po』のアメリカ文学特集の原稿について話し合いました。8月発行の『Po』秋季号に掲載される予定。出席者は佐藤（成）、高取、上野、宍戸（敬称略、以下同じ）でした。

7月30日（土）に会合を開き、相良氏から、Daniel Melzer, “People” についての発表がありました。1989年の“証券恐慌”を背景に、成功を求める若者の愛のない、不毛の人間関係を中心に話し合いました。また、Malcolm Bradbury, *The Modern American Novel* (Oxford U.P.) を当分科会で翻訳することを決定し、担当範囲を決めました。出席者は佐藤（成）、高取、相良、上野、宍戸、五味田でした。次回の会合は、9月24日（土）3時の予定。

3. 第3分科会

7月28日（木）に会合を開き、各メンバーの論文の進捗状況を報告し今後のスケジュールを話し合いました。1名を除いて、他のメンバーは全員が論文の第一部に当たる論文を発表済みの段階です。出席者は、門野、小野、山根、石塚、中村でした。

4. 第4分科会

3月20日（日）、5月15日（日）、6月25日（土）、7月22日（金）に会合を開き、それぞれ「ビデオ字幕の教育的利用法とその効果」について検討を重ねました。第12回大会（函館大学）で共同研究報告の予定です。出席者はいずれも、亀山、石田、石井、伊藤、平川、藤田、中野でした。

5. 第5分科会

5月14日（土）に会合を開き、山下氏から、「アメリカ社会における銃規制問題」についての発表がありました。銃の氾濫—犯罪殺人事件の多発、Amendment 2 to the Constitution、銃規制への歩みと、タイムリな話題であると同時に、米社会の銃と日本社会の刀との比較文化にも触れた、大変啓発的な発表でした。出席者は山下、越智、加藤、笹川、渡辺（節）でした。次回の会合は9月10日（土）3時です。

（分科会理事 五味田）

事務局からのお知らせ

<<新入会員>>

<<住所訂正>>

<<名簿準備中>>

次号の会報と学会の名簿を同送する予定ですので前年度の名簿の記載事項から変更のある会員は、総務担当理事須田理恵先生まで郵便にて変更をお伝えください。ファックスなどを新規に装備した場合も同じに願います。

<<理事の構成が変更になりました>>

企画担当理事として大活躍いただいた、石田雅近先生がご多忙のため理事を辞任なさいました。長い間ありがとうございました。

学会の活動も多岐にわたるようになり、仕事量も急激に増加しましたので、6月の総会の決議に従い、次の方々に理事としてご活躍いただくことになりました。

鈴木 俊二

須田 理恵

曾村 充利



新理事の参加により、当学会の組織は以下ようになります。

理 事 会

理 事 長	名和 雄次郎 (会 長)
常 任 理 事	高取 清 (副会長)
常 任 理 事	小野 昌 (副会長)
常 任 理 事	佐藤 治夫 (事務局長)
学術担当理事	相良 英明
分科会担当理事	五味田 幸夫
編集担当理事	中村 豪
総務担当理事	須田 理恵 (新)
財務担当理事	石川 郁二
例会担当理事	鈴木 俊二 (新)
大会担当理事	曾村 充利 (新)

◇総務担当理事 須田 理恵

主な業務：名簿管理、会員の記録管理

◇例会担当理事 鈴木 俊二

主な業務：例会の企画、運営、例会での研究発表申し込み

◇大会担当理事 曾村 充利

主な業務：大会の企画、運営、大会での研究発表申し込み



William M. Thackeray
by
Samuel Laurence

例会、大会での発表ご希望またはお問い合わせは各担当理事までお間違えのないようお願いいたします。また、住所などの学会への登録状況に変更があった場合は従来は事務局の佐藤先生までご連絡いただいておりますが、今後は須田理恵先生のご自宅まで郵便にてご連絡ください。

編集委員会から

◆前回の会報(第19号)の記事に誤りがありましたのでお詫びとともに訂正いたします。

2ページの5行目 誤 <Have+O+P. P.>型の授業での取り扱い方
正 <Have-Object+Present Participle>型の授業での一つの取り扱い方

◆『英米文化』への論文入稿時のお願い

『英米文化』巻末にも投稿規定が出ておりますが、この度、桐原ユニさんが更に具体的な「お願い」を作ってくれましたので、それを掲載いたします。従来、投稿論文の形式に不統一の面が見られましたため、作業を進める上で担当者が大分苦慮されていた様子です。つきましては、編集委員会といたしましても、論文投稿時の規定を会員の皆様に熟知していただき、編集作業の能率を向上させたいと存じます。下記の項目をご覧になられて、ご協力くださいますようお願いいたします。

1. 基本的な文章の形式(タイトル、見出し、引用部分、注ノンブル、後注、参考文献等)は別紙の見本のよう
に統一させていただくことをご承ください。ただし、内容によって、違う形式の方が適している場合には変
更しますので、そのようにご指示ください。

2. フロッピー入稿時の諸注意

(1) 文章中に図表が挿入される場合、特殊な図形モードを使用されますと、機種によってはそのファイルが
変換不可能となります。その場合は図表が入る箇所に「図1」というように入力してください。図の部
分のスペースはとらないでください。また、図表と本文とは別のファイルに保存してください。

(2) 句読点等のぶら下がり、段落の最初の1字下げ等は自動的に行なわれます。同じ段落内での改行等のた
めの余分なスペース、改行コマンド等は、なるべく入れないようにしてください。

(3) 本文中の注のノンブルは、カッコなしのアラビア数字に統一しています。入力時にも、カッコ、スペ
ス等はつけないでください。

また、文末にノンブルがくる場合は、

...した3.

というように、句読点の前につけてください。

入力時には、特に上付数字にしなくてもかまいません。普通に数字を入れてください。

以上の諸注意は、データを変換し、組版していく上で、より効率的に仕事を進めるために記したものです。ど
うしてもこれらの方法ではやりにくいという場合にはご相談ください。



Cowan Bridge
School

編集・発行：英米文化学会編集委員会=池田 広子、小川 喜正、岸山 睦、武井 朗子、中村 豪、
宮崎 敬子、山根 正弘

発行責任者：中村 豪 〒